

羽ばたけ若人

大人の仲間入り

成人式 一九二名祝う

一月十五日の成人の日、東陽小体育館で一九二名(男一一一名女八一名)の大人の仲間入を祝う成人式が行われました。

当日は、春を想わせるような暖かい日となり、華やかな晴着姿や背広姿が会場を埋めました。

成人者を代表して大木幸枝さんが感謝のこ

とばを述べ、意見発表では、五名の方々が力強く将来への決意を發表しました。(発表要旨別掲)

記念講演では、越川伸先生のユ一モアをまじえたお話しに、耳を傾け熱心に聞き入っていました。帰りに記念の五葉松を受取り、クラス会やお宮参りに向かいました。

この若人が幾多の障害を乗り越っばな大人へと成長していくことでしょう。

相手の立場を

理解できる人間に

傍示戸 齊藤 秀敏

学生から社会人になるといこうとは、社会から保護されていた生活から、社会を構成する一個の分子として勤労を中心とした生活をして行くことだと思います。

そうすると、おのずと物の見方がまえ、考え方が変わらなければならぬと思います。そんな生活の急変にとまどいを感じながらも決意を新たにしている現在ですが、私がここで大事だと思うのが、私と成った今、どのような心構えや自覚を持つかということです。そのためには、自分のおかれています社会現状を正確に把握することだと思います。

そんな今、大人が自分の経験、過去の意識で若者を見、批判することは、よい社会への発進にはならないと思うのです。

これからの日本の社会が、どのような方向に進むかは、成人と云った私達の双肩にかかっていると思うのです。そのために私は、成人としての自覚を持ち社会の種々の問題に堂々と自分の考えを言え相手の立場を理解できる人間になるために努力したいと思います。

社会と自分

橋場 越川 良樹



私が今一番考える事は、社会と自分との関係についてです。これも以前考えていたような抽象的な問題ではなく、現実自分のやっている学問と自分、未来の自分の有り方などについて具体的に考えるようになりました。これはやはり満二十歳と言う年齢のなせるわざでしょう。

私の最近読んだ本の中に良い言葉がありました。「どんな仕事でも、それが世の中に必要ならばこそ成り立つので、世の中の人が求

職業に自信と誇りを

宝米 布施 貞志



らは、自分に対して責任を持たなければならぬということ、今までとは違うということを、常に頭の中に置いておかなければなりません。

自分では、こどもだと思っていたのにもう二十歳になり、これか

これからは、人それぞれ違った職業に大人としての自覚と責任を持たなければなりません。

数ある職業の中で自分は、農業を選びました。どの仕事をとってみても最初からうまくいくはずはありません。いつも不安でした。しかし友達もたくさんいます。今までになかった仕事の喜びや他の面での楽しみもできました。

これから先、まだまだ不安でいっぱいですが、自分の職業に自信と誇りを持った人間になりたいと思います。

責任ある行動を

二又 川島 恵子



成人を迎えた今、私は何をすべきでしょう。選挙権を与えられ参政することがあります。未成年であった今までは、あまりにも政治に対する関心が薄かった自分です